



お問い合わせ先
 全国共済農業協同組合連合会 (JA共済連)
 全国本部 農業・地域活動支援部 地域貢献運営グループ
 〒102-8630 東京都千代田区平河町 2-7-9 JA共済ビル



<https://social.ja-kyosai.or.jp/>

JA共済 地域貢献活動 REPORT 2023



**ちいき
 めぐる号**

JA共済
 地域貢献活動アンバサダー
 ティモンディ
 (左:前田裕太、右:高岸宏行)



はじめに

JA共済は、組合員・利用者の皆さまが、住み慣れた地域で、豊かで安心して暮らすことのできる地域社会づくりに貢献するために、地域の皆さまとの絆を大切にしながら、共済事業と地域貢献活動に取り組んでいます。

本冊子では、JA共済が取り組むさまざまな地域貢献活動を紹介します。

JA共済の使命

- JA共済は、農業協同組合が理念とする「相互扶助」を事業活動の原点とし、常に組合員・利用者の信頼と期待に応え、「安心」と「満足」を提供します。
- JA共済は、最良の保障・価格・サービスによる「ひと・いえ・くるまの総合保障」の提供を通じて、組合員・利用者の豊かな生活づくりに努めます。
- JA共済は、事業活動の積極的な取り組みを通じて、豊かで安心して暮らすことのできる地域社会づくりに貢献します。

JA共済の取り組み

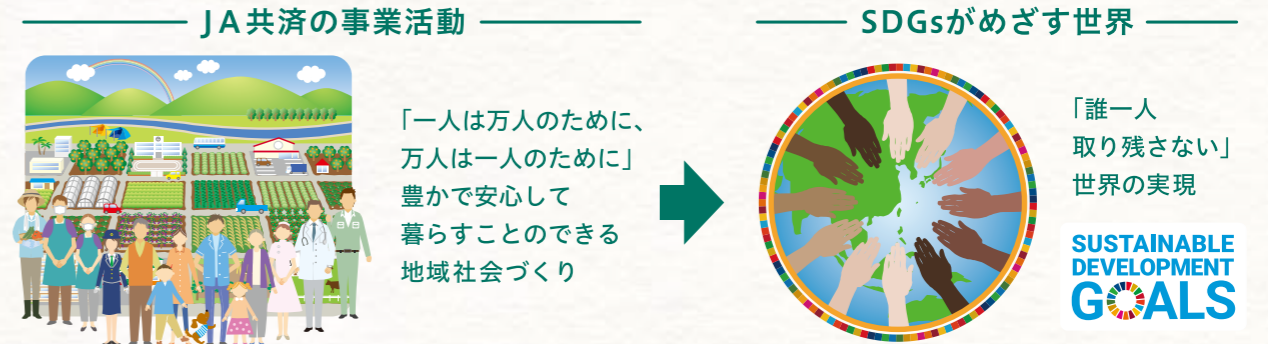
JA共済は保障の提供と地域貢献活動を通じて、地域社会へ「安心」と「満足」の輪を広げていきます。



JA共済のSDGsへの取り組み

私たちJA共済は、「一人は万人のために、万人は一人のために」という「相互扶助(助け合い)」を事業理念に、保障の提供と地域貢献活動を通じ、組合員・地域の皆さまが豊かで安心して暮らすことのできる地域社会づくりをめざしてきました。

このような取り組みの一つひとつが、SDGsの実践そのものであり、SDGsがめざす世界の実現につながると考えています。



JA共済のSDGs取組方針

保障・サービスの提供や地域貢献活動等の事業活動を実践し、JA共済の事業基盤である農業と地域社会の持続可能性を確保します。

1. 健康で豊かな生活への貢献

保障提供をはじめ、健康管理・増進や介護・福祉に資するサービスおよび地域貢献活動の取り組みにより、健康で豊かな生活づくりに貢献します。

貢献する主なSDGs目標



2. 安全・安心を実感できる地域社会づくり

保障提供をはじめ、防災・減災・事故防止に資するサービスおよび地域貢献活動の取り組みにより、安全で安心を実感できる地域社会づくりに貢献します。

貢献する主なSDGs目標



3. 持続可能な農業への貢献

農業振興・農業者所得増大・農業リスク軽減に資する保障・サービスや地域貢献活動の取り組みにより、持続可能な農業に貢献します。

貢献する主なSDGs目標



4. 地球環境への貢献

温暖化防止や環境保護に資する取り組みにより、気候変動に代表される地球環境問題の解決に貢献します。

貢献する主なSDGs目標



数字で見るJA共済の取り組み

JA共済はすべての組合員・利用者の皆さまのお守りとなれるように、さらに歩みを進めていきます。

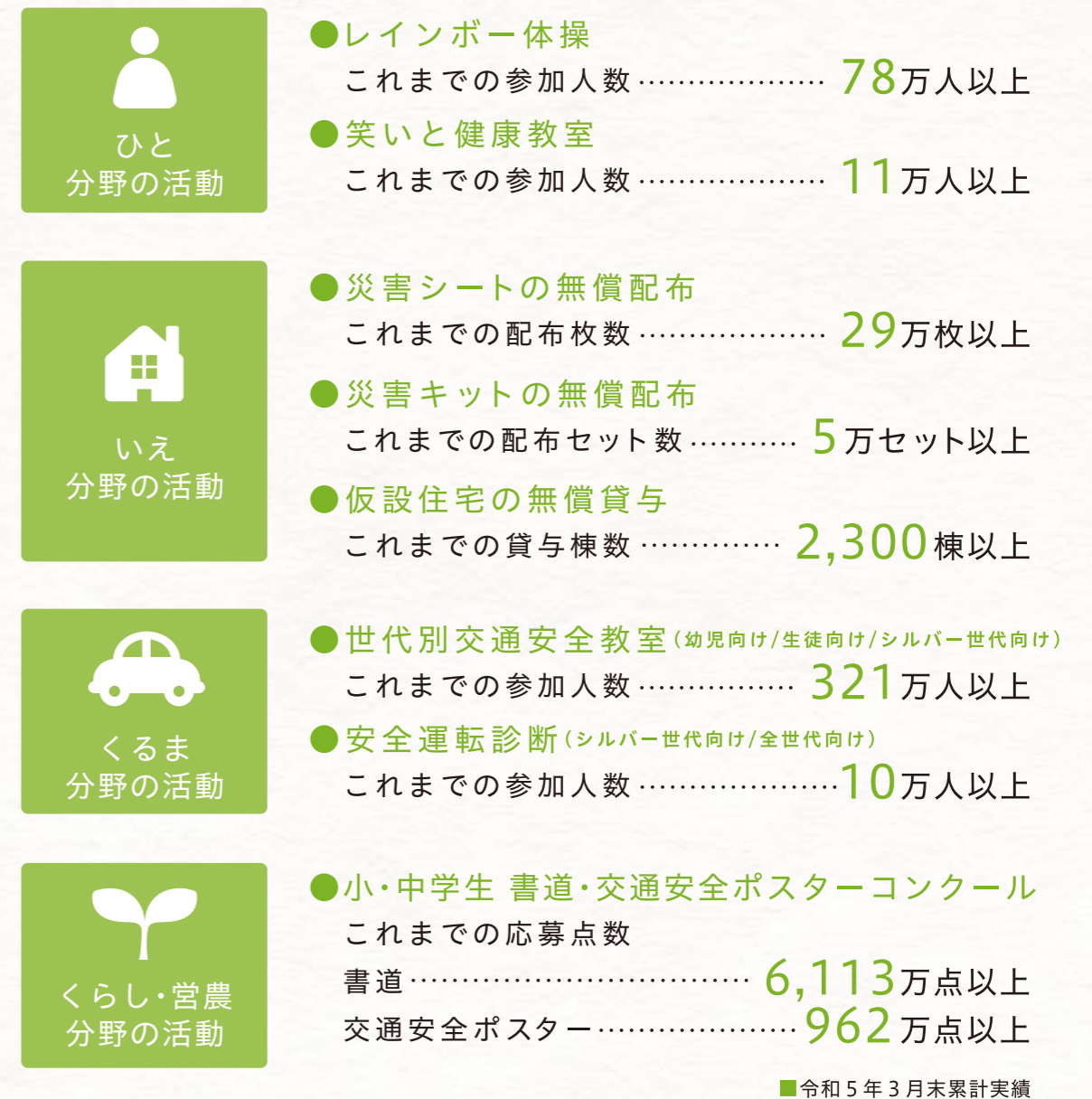
保障の提供 ひと・いえ・くるまの総合保障

充実した保障の提供を通じて、皆さまの毎日の暮らしに安心をお届けしています。



地域貢献活動 ひと、いえ、くるま、暮らし・営農に関する地域貢献活動

健康で安心して暮らせる豊かな環境づくりのために、さまざまな活動を展開しています。



「地域・農業活性化」に向けた自己改革の取り組み

約1,400万人の方々に参加していただきました

JAグループでは、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」としての社会的役割を果たすため、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標に不断の自己改革を進めています。

これを踏まえ、JA共済では、平成28年度に「地域・農業活性化積立金」を創設し、従来から行っていた健康管理・増進活動や災害救援、交通事故対策活動などの「ひと」「いえ」「くるま」分野の地域貢献活動に加え、地域の実情に応じた「くらしや営農」に関するさまざまな活動に、JAと一体となって取り組んできました。

平成28年度から令和4年度の7年間における各領域の活動件数は約3万3,000件(累計)にのぼり、イベントなどの活動には約1,400万人(のべ)の方々に参加していただきました。

地域・農業活性化積立金を活用した各領域の活動実績

主な取り組み	活動実績
食育イベントの開催、農業体験の実施	〈参加人数〉 約192万人
農作業効率化に向けた先進機器等の寄贈	〈寄贈先〉 1,096か所 (うちドローン82台)
農業高校・農業大学校への農作業機械等の寄贈	〈寄贈先〉 292校
地域特産物のPRイベントの開催、資材作製等	〈活動件数〉 1,321件
JAまつり等の開催・協賛	〈参加人数〉 約688万人
地産地消促進活動への支援	〈活動件数〉 573件
担い手サポートセンターを通じた活動支援	〈活動件数〉 57件
直売所におけるイベントの開催	〈参加人数〉 約66万人
直売所の設備強化	〈活動件数〉 488件
新規就農・労働力不足への支援	〈活動件数〉 195件
鳥獣被害対策	〈活動件数〉 1,336件

営農分野 (農業全般)

- 農業振興活動

くらし分野

- 生活支援活動
- 協同活動
- 文化支援活動
- 環境保全活動

主な取り組み	活動実績
移動購買車の寄贈	〈寄贈数〉 135台
救急自動車の寄贈	〈寄贈数〉 37台
子育て支援イベントの開催	〈参加人数〉 約89万人
高齢者生活支援の実施	〈活動件数〉 1,071件
女性大学・婚活等 各種イベントの開催	〈参加人数〉 約61万人
防犯カメラの寄贈	〈寄贈数〉 1,661台
スポーツ大会の開催・協賛	〈参加人数〉 約214万人

ひと分野

- 健康管理・増進活動
- 介護・福祉活動

主な取り組み	活動実績
検診車の寄贈	〈寄贈数〉 16台
血圧計の寄贈	〈寄贈数〉 1,107台
AEDの寄贈	〈寄贈数〉 1,036台
健康教室・イベントの開催・助成・協賛	〈参加人数〉 約62万人
健康診断・人間ドック等の助成	〈参加人数〉 約62万人
車いすの寄贈	〈寄贈数〉 923台
介護予防教室の開催(デイサービス含む)	〈参加人数〉 約4万人

いえ分野

- 防災・防火対策活動

主な取り組み	活動実績
防災教室・イベントの開催	〈参加人数〉 約29万人
防災用品の寄贈等	〈活動件数〉 477件

くるま分野

- 交通事故未然防止活動
- 交通事故被害者支援活動

主な取り組み	活動実績
交通安全指導車の寄贈	〈寄贈数〉 168台
交通安全啓発資材の寄贈等	〈活動件数〉 401件
交通安全教室・イベントの開催	〈参加人数〉 約17万人

活動件数(累計) 約3万3,000件

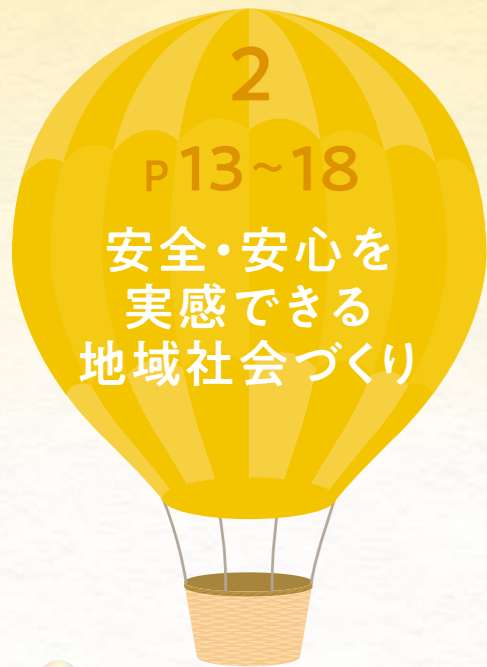
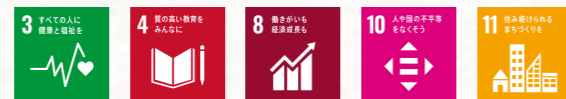
参加人数(のべ) 約1,400万人



健康管理・増進や介護・福祉に資する取り組みにより、健康で豊かな生活づくりに貢献します。

- 健康管理・増進に向けた取り組み
- 交通事故被害者の社会復帰支援に向けた取り組み
- 次世代を担う子どもたちの文化支援に向けた取り組み

地域貢献活動で実践しているSDGs目標



防災・減災・事故防止に資する取り組みにより、安全で安心を実感できる地域社会づくりに貢献します。

- 防災・減災に向けた取り組み
- 災害救援・復興支援に向けた取り組み
- 交通事故未然防止に向けた取り組み

地域貢献活動で実践しているSDGs目標



ちいきめぐる号に乗って
JA共済の地域貢献活動を
SDGs取組方針に沿って見に行こう！

いろいろな活動を
発見するのが楽しみです。
さあ、出発しよう！！



農業振興・農業者所得増大・農業リスク軽減に資する取り組みにより、持続可能な農業に貢献します。

- 農作業事故未然防止に向けた取り組み
- 県域における農業の活性化に向けた取り組み

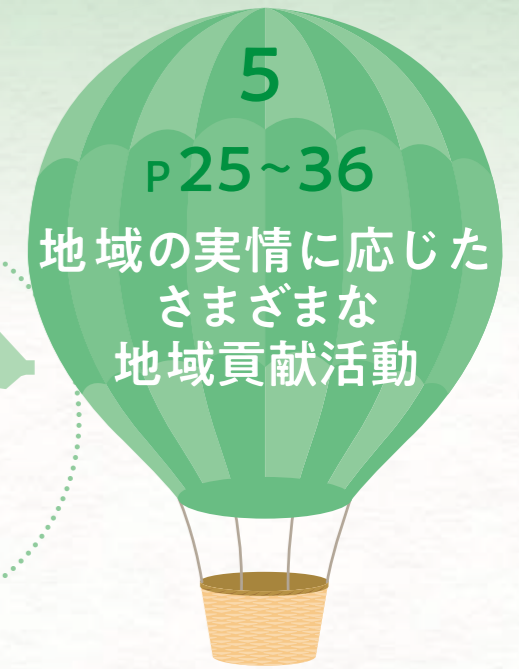
地域貢献活動で実践しているSDGs目標



温暖化防止や環境保護に資する取り組みにより、気候変動に代表される地球環境問題の解決に貢献します。

- フード・マイレージ低減に向けた「地産地消」支援の取り組み

地域貢献活動で実践しているSDGs目標



協同の力で
助け合いの
輪を日本中に

安全・安心な地域社会の実現や
皆さまの健やかな生活を守るために、
全国各地で地域の実情に応じた
さまざまな活動に取り組んでいます。





1

健康で豊かな生活への貢献

健康管理・増進や介護・福祉に資する取り組みにより、健康で豊かな生活づくりに貢献します。

▶ レインボー体操の普及

心臓に負担をかけないやさしい動きで、全身の血液の流れをよくするJA共済オリジナルの健康体操です。立っても、座っても、寝ていてもできるため、体力に自信のない方や高齢者にも安全に行っていただけます。いろいろな音楽に合わせて楽しく体を動かしながら、病気予防・健康づくりを推進しています。



▶ ちょいムズチャレンジの開催

親子で体を動かす楽しさを体感していただく運動プログラムです。「幼児期運動指針」(文部科学省)に基づく「幼少期に身につけたい36の基本動作」のうち、「なげる」「うつ」「ける」の3つの動作を中心に、ゲーム形式で遊びながら体験するイベントを開催しています。



▶ 健康・介護ホットラインの開設

生活習慣病予防や肥満などの健康相談、医療機関の情報提供、育児・介護などのご相談を専門スタッフがフリーダイヤルでお受けしています。

※医師・栄養士による専門的な相談は、予約になる場合がございます。

シアワセイチバン コンサルタント

0120-481-536
無料 受付時間 24時間・365日

看護師・介護支援専門員
(ケアマネジャー)・医師(精神科・心療内科を除く)・栄養士による親身な対応

●お名前は伺いませんので安心してご利用ください。



活動を通じて
生まれた喜びの音が
聞こえているんですね。

地域貢献活動の花が
たくさん咲いていますね！
おや、花から声が聞こえますよ！

レインボー体操を
やったり肩が
あがるように
なったよ！

みんなで
体操をすると
楽しい！

▶ 社会復帰支援のためのリハビリテーションセンターの開設

静岡県の中伊豆と大分県の別府に交通事故などによる身体障がい者の社会復帰支援を目的としたリハビリテーションセンターを開設しています。これら2つのリハビリテーションセンターは、「病院」「福祉施設」「介護施設」の3つの機能を持った全国でも数少ない総合型の施設です。昭和48年の設立以来、機能回復から自立支援まで、利用者さまのニーズに合わせたリハビリテーションを通じて、交通事故被害者などの社会復帰をお手伝いしています。



社会福祉法人 農協共済
中伊豆リハビリテーションセンター



社会福祉法人 農協共済
別府リハビリテーションセンター

memo

農福連携の取り組み

農福連携とは、障がい者等が農業分野で活躍することを通じて、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取り組みです。

令和5年4月にJA共済連、一般社団法人JA共済総合研究所および一般社団法人日本農福連携協会は、相互の連携、協力を通じて農福連携による地域・農業の持続的発展に向けた支援の取り組みを実施するため、包括連携協定を締結しました。



別府リハビリテーションセンターでのミニトマトの栽培の様子

▶ 介助犬の育成・普及支援

交通事故などにより手足に障がいのある方の日常生活を介助する「介助犬」の育成・普及支援に取り組んでいます。

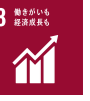
社会福祉法人 日本介助犬協会の事業の支援やNPO法人 日本補助犬情報センターへの研究支援、介助犬によるデモンストレーション「ガンバレ！介助犬！JA共済はたらくワンワンランド！」を開催しています。



介助犬の
ことも
もっと知って
ほしい！

役に立てて
嬉しい！

農作業を
手伝ってもらって
助かっています！





1 健康で豊かな生活への貢献

▶小・中学生 書道・交通安全ポスターコンクールの開催

次代を担う小・中学生の皆さまに、「相互扶助」と思いやりの大切さを伝えるとともに、書写教育に貢献することを目的に書道コンクールを開催しています。また、交通安全への意識を高め、幅広く社会に呼びかけることを目的に交通安全ポスターコンクールを全国および各都道府県で開催しています。令和4年度で、全国コンクールは書道66回、交通安全ポスター51回を数え、日本最大級の規模を誇ります。



サイト check!



▶日本リトルリーグ野球協会・日本リトルシニア中学硬式野球協会への協賛

「野球というチームプレーを通じて健全な社会性を養い、強健な身体と健全な精神の涵養に寄与すること」などを目的とし、公益財団法人 日本リトルリーグ野球協会および一般財団法人 日本リトルシニア中学硬式野球協会の活動に協賛しています。日々の運動を楽しむ子どもたちから国際大会をめざす子どもたちまで、小・中学生の健康で健全な心身の育成に貢献しています。



▶全国小・中学校リズムダンスふれあいコンクールへの協賛

全国大会という目標に向かい、クラスが一丸となって活動することで、お互いを認め合い、協力しあう心を育み、学校生活を活性化することを目的とした全国小・中学校リズムダンスふれあいコンクールの活動に協賛し、小・中学生の豊かな人間性の育成や体力の向上に貢献しています。



仲間に感謝!

自分が納得できるまで毎日書き続けました!

Column

いつまでも健康で心豊かに暮らせる社会をめざして



人生100年時代の今、JAグループでは、誰もが自分の力で健康を管理し、高齢期を迎えても元気に毎日をご過ごせるよう、「JA健康寿命100歳プロジェクト」に取り組んでいます。健康寿命をのばすために大切にしていることは、「きづく」(健診・介護・医療)、「とりくむ」(運動・食事)、「つながる」(交流・発信)のサイクルです。どんな活動も、一人ではなかなか持続しにくいものです。家族や友人、グループ、そして地域活動へと健康寿命の輪を広げていきたいですね。



皆さまの豊かな生活づくりをサポートする取り組み

組合員・利用者・地域住民の皆さまの「げんきなカラダ」づくりを総合的にサポートする取り組み「げんきなカラダプロジェクト」を令和3年4月から開始しています。令和5年4月からは、「防災・減災、再発防止」に向けた取り組みとして、組合員・利用者・地域住民の皆さまの安心・安全な暮らしをサポートする取り組み「あんしんくらしプロジェクト」を新たに開始しました。

サイト check!



げんきなカラダWALK

令和3年度から、どなたでも気軽に参加いただけるオンラインウォーキングイベント「げんきなカラダWALK」を開催しています。JA共済アプリを活用し、高血圧や糖尿病などの生活習慣病の予防に効果があるといわれている1日8,000歩以上歩くことをめざすことで、「歩く習慣作り」による健康増進に貢献しています。令和4年度には、約1万3,000人の方に参加いただきました。

毎日継続するなんてすごい!

楽しく無理なく健康づくりをしてみますわ!



1駅手前で降りて家まで歩くようになりました!



1日8,000歩歩くのが習慣になりました!



2

安全・安心を実感できる地域社会づくり

防災・減災・事故防止に資する取り組みにより、安全で安心を実感できる地域社会づくりに貢献します。

▶ ザブトン教授の防災教室の開催

イス型の地震動体験装置「地震ザブトン」で過去に起こった地震のリアルな揺れを体験できる学習型プログラムです。家具の固定など日頃から地震に「備える」ことの必要性を再認識していただけるイベントを開催しています。



イラスト©文平銀座+NPO法人プラス・アーツ



ぼうさいこくたい2022出展の様子

● プログラムの流れ

「感じる」こと「学ぶ」ことを通じて、「備える」行動につなげていただけるプログラムです。

1. 導入

スタッフによる説明。「大地震が来たらどう行動するか」について考える。

2. 感じる

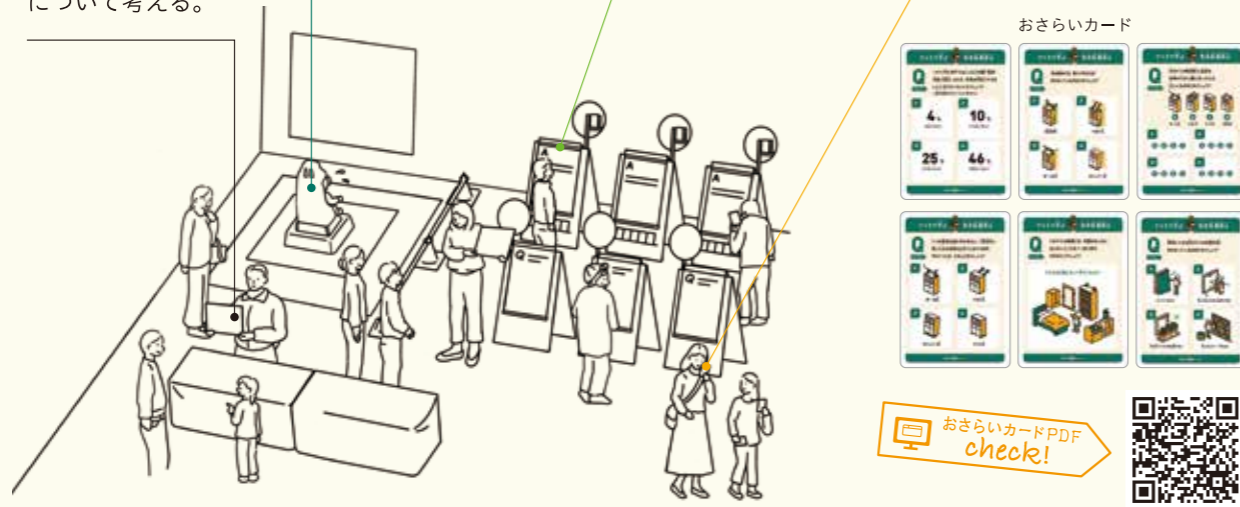
地震ザブトンに乗り過去の地震を体験する。

3. 学ぶ

クイズ形式のパネルで家の中の安全対策について学ぶ。

4. 備える

おさらいカードを持ち帰り、家での備えにつなげる。



家具の固定は大切です！

僕も体験して「備える」ことの重要性を学びましたよ！

災害シートとても助かります！

音楽を通じて思いを伝えたい！



▶ 災害シートの無償配布*

自然災害などでお住まいが壊れてしまった方に、JAを通じて災害シートを無償で配布しています。東日本大震災、熊本地震などでも災害シートをお配りし、災害からの復興に向けたサポートをしました。

*JA共済のご契約者さまで一定の要件を満たす場合に限りです。



▶ 災害キットの無償配布*

自然災害などで被害を受けられた方に、JAを通じて災害キットを無償で配布しています。令和4年8月豪雨(新潟県等)などでも、災害キットをお配りしました。

*JA共済のご契約者さまで一定の要件を満たす場合に限りです。



memo

2023年 関東大震災 100年

9月1日が「防災の日」と制定されたのは、大正12年(1923年)の関東大震災の発生日に由来します。地震に起因する火災や土砂災害など甚大な被害をもたらした近代日本における災害対策の出発点となりました。令和5年9月で100年の節目を迎えるにあたり、関東大震災に学び、「いざ」というときに備えましょう。

関東大震災
大正12年(1923年)9月1日
死者・行方不明者 約10万5,000人

阪神・淡路大震災
平成7年(1995年)1月17日
死者・行方不明者 約5,500人

東日本大震災
平成23年(2011年)3月11日
死者・行方不明者 約1万8,000人

参考:内閣府ホームページ

▶ 東北ユースオーケストラへの活動支援

東日本大震災の被災三県(岩手県・宮城県・福島県)出身の子どもたちを中心に構成され、代表・監督 坂本龍一氏によって設立された一般社団法人東北ユースオーケストラ(TYO)に協賛し、「震災からの心の復興」に向けた活動を支援しています。

ムービー check!





2 安全・安心を実感できる地域社会づくり

JA共済の交通安全の取り組みの一部は、自賠責共済の運用益を活用して実施しています。

全世代向け

▶ドライバーからの服装見えやすさ診断の実施 **NEW**

交通死亡事故が1日のなかで最も多く発生する薄暮時間帯・夜間の「自動車対歩行者」の交通事故削減に向けて、体験者自身の姿がドライバーからどのように見えるのかを実感いただける服装見えやすさ診断「見えチェック」を開催しています。また、ホームページでは反射材アイテムや明るい服装のコーディネートなどを紹介しています。



●プログラムの流れ

STEP 1

撮影



グリーン背景で全身を撮影

STEP 2

解析・シミュレーション



時間帯と距離ごとの輝度を解析、見え方をデジタルイメージで再現

STEP 3

診断



服装の見えやすさをA/B/Cの3段階で判定した診断表を配布

memo

新たな交通安全プログラムを一般財団法人トヨタ・モビリティ基金と共同開発

薄暮時間帯・夜間の「自動車対歩行者」の交通事故を防ぐには、ドライバーが細心の注意を払うことに加え、歩行者が自身の存在をドライバーに発見してもらうことが重要です。そこで、JA共済連と一般財団法人トヨタ・モビリティ基金は交通事故ゼロをめざすという共通の想いのもと、服装見えやすさ診断「見えチェック」を共同開発しました。

自動車から見える距離
(夜間、ライト下向き)

約26m

約38m

約57m以上*



黒っぽい服装でも見える

約32m



明るい服装なら見える



反射材着用なら見える

時速50kmで走行時に、歩行者を発見して止まれる距離(乾いた路面)

反射材をつけるさらに安心!

*JPマークのついた製品によるもので、面積2.5cm²かつ117mcd/lux以上の反射材を使用の場合。
参考：一般社団法人日本反射材普及協会ホームページ

思いやり、ゆずり合いが交通事故を防ぎます!

全世代向け

▶自転車安全運転診断の実施

自転車シミュレーターを搭載した自転車安全運転診断車「すまいる号」を全国に派遣し、巡回型の自転車の安全運転診断を行っています。

約5~10分程度の体験で自転車乗用中の交通ルールや危険予測を実践的に学習いただけます。



幼児向け

▶JA共済アンパンマン交通安全キャラバンの開催

「JA共済アンパンマン交通安全キャラバン」が全国を巡回し、歌や踊りを通じて幼児に交通ルールを伝えます。

小さなお子さまに人気のJA共済のイメージキャラクター「それいけ!アンパンマン」。アンパンマンたちといっしょに交通ルールを学び、親子で交通安全について考える時間を提供しています。



©やなせたかし/フレーベル館・TMS・NTV

生徒向け

▶自転車交通安全教室の開催

中学校や高等学校への交通事故対策活動として、警察などと連携したスケアード・ストレイト教育技法による自転車交通安全教室を実施しています。生徒の前でスタントマンが交通事故を実演し、危険性を疑似体験させることで、交通安全意識を醸成しています。



交通ルールを学ぶことは大切ですね。

大切な命を守るために交通ルールはしっかり守らないといけませんね。

交通ルール守ります!

横断歩道は手をあげて渡ります





2 安全・安心を実感できる地域社会づくり

JA共済の交通安全の取り組みの一部は、自賠責共済の運用益を活用して実施しています。

シルバー世代向け

交通安全教室の開催

高齢者の交通事故を防ぐために、「シルバー世代向け交通安全教室」を開催しています。JA共済オリジナルの「交通安全落語」で笑いながら交通安全の意識を高め、誰でも楽しく参加いただけます。



シルバー世代向け

自動車安全運転診断の実施

高齢ドライバーの交通事故を防ぐために、ドライビングシミュレーターを搭載した自動車安全運転診断車「きずな号」を全国に派遣し、巡回型の安全運転診断を行っています。動体視力や判断力など運転に必要な能力を測る「運転能力診断」と、運転中の危険予測能力や運転操作、法令順守の状況を測る「安全運転診断」を体験いただけます。



診断書イメージ



交通安全の大切さを
実感いただいた
皆さまの声が
聞こえてきますね！

車を
運転するときは
注意しようと思
いました。

ヘルメットの必要性が
伝わってますね！

楽しく
交通安全に
ついて学べた

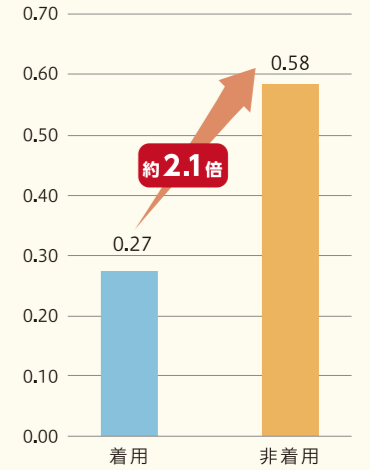


Column

全自転車利用者にヘルメット着用が努力義務に！

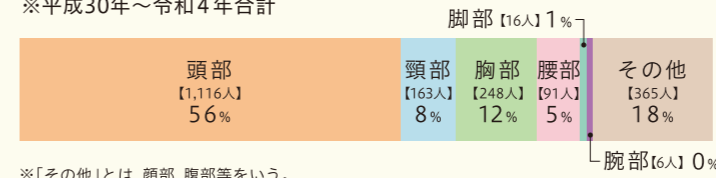
令和5年4月1日施行の道路交通法の改正により、自転車乗用時のヘルメット着用の努力義務が、13歳未満の子どもだけでなく大人や高齢者などすべての人に適用されることになりました。警察庁のデータによると、自転車乗用時の交通事故で亡くなった方の5割以上が、頭部に致命傷を負っています。また、ヘルメットをしていなかった方は、着用していた方よりも致死率が約2.1倍高くなっています。そこで、JA共済は自転車乗用時に起こり得る危険やヘルメット着用の大切さを地域社会に呼びかけています。

●自転車乗用中のヘルメット着用状況別の致死率
※平成30年～令和4年合計



参考：警察庁ホームページ

●自転車乗用中死者の人身損傷主部位別(致命傷の部位)
※平成30年～令和4年合計



※「その他」とは、顔部、腹部等をいう。

自転車乗用時のヘルメットの必要性を伝える取り組み

ヘルメットの必要性を伝えるために、ヘルメット着用の有効性を検証する実験映像やクイズなどを交え、世代別にオリジナルムービー「自転車乗るならヘルメット！～かぶろう、大切な命を守るために～」を制作しました。

また、ホームページでは、一般財団法人日本自動車研究所(JARI)に委託し、JA共済連が独自に行った「自転車単体の転倒」「頭部への衝突」「壁面衝突」の実験結果を公開しています。

●世代別オリジナルムービー



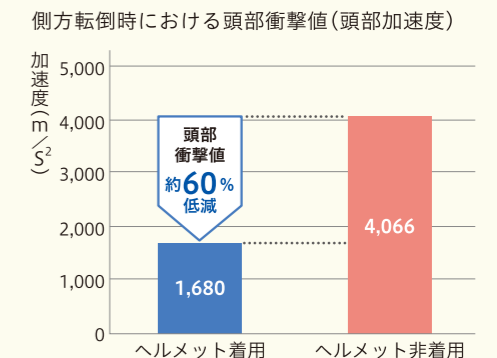
監修：一般財団法人日本交通安全教育普及協会



サイト
check!

●実験結果の一例

自転車単体の転倒(一人乗車の場合)
自転車にまたがった状態で側方に転倒し、頭部を縁石にぶつけた時、ヘルメット着用時の頭部衝撃値は約60%低減する。



(注)衝撃値は、今回の実験条件下での結果であり、すべての自転車事故に当てはまるものではありません。

自転車用の
ヘルメットを
購入しました！

カッコいい！
ヘルメットを
発見！



3

持続可能な農業への貢献

農業振興・農業者所得増大・農業リスク軽減に資する取り組みにより、持続可能な農業に貢献します。

▶ 農作業事故体験VR※を活用した学習プログラムの展開

※VR:バーチャル・リアリティ

農作業事故の未然防止を目的に、当事者の視点から農作業中の事故を疑似体験できる「農作業事故体験VR」を活用した学習プログラムを、全国のJAにおける研修会やイベント、農業関連団体による講習会などで展開しています。令和5年2月には、新たなコンテンツ「田植機 巻き込まれ・転落編」を制作しました。



農業高校での農作業事故未然防止に向けた授業の様子

● VR映像コンテンツ



乗用型トラクター 転倒編



耕うん機 後進作業編



コンバイン 巻き込まれ編



スピードスプレーヤー 挟まれ編



刈払機 刃との接触編



脚立 転落編



農用運搬機 転倒・積み降ろし作業編



田植機 巻き込まれ・転落編

NEW

発生件数と重症度を参考にしてVR映像を作ったんですね。

疑似体験って“自分ごと化”できますよね。みんなにも伝えたいですね。

うちの農家のおじいちゃんにも教えてあげたい。

リンゴの収穫時、脚立に乗るので気をつけます。

memo

農作業事故を防ぐため 農研機構と映像を共同制作

全国で農作業事故が多発するなか、大切な農業従事者の命と経営を守るため、事故対策は喫緊の課題です。JA共済連と農研機構は、お互いの知見をいかして「農作業事故防止」に特化したVR映像コンテンツを共同で制作し、事故を未然に防ぐための啓発活動を推進しています。

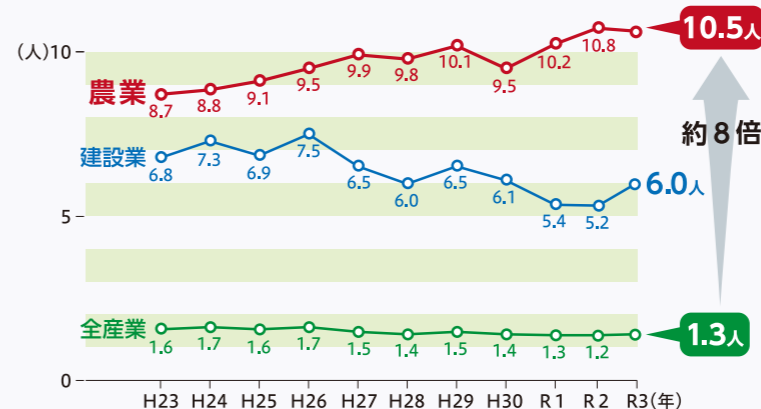
column

STOP! 農作業事故

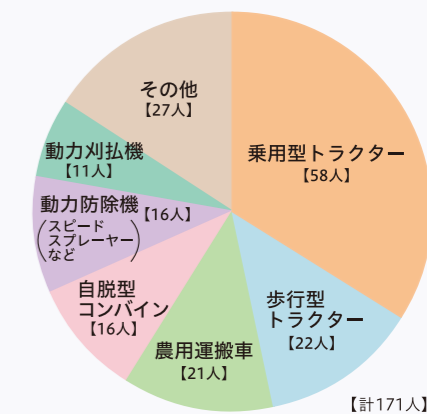
農業は“生涯現役”の仕事だからこそ、安全に作業したいものです。ところが、農作業事故の年間発生件数は約7万件※1と推計され、農林水産省が発表した令和3年の農作業事故死亡者数は242人。就業者10万人当たりの死亡者数は、全産業と比べると約8倍にもものぼり、その数を減らすことが大きな課題となっています。

なかでも、重大事故につながりやすいのが農業機械での事故です。令和3年に発生した農作業中の死亡事故のうち約71% (171人)が、乗用型トラクターなど、農業機械での作業中に発生した事故となっています。

● 就業者10万人当たりの死亡者数の推移※2



● 農業機械作業に係る死亡事故発生状況 ※令和3年1~12月



※1 JA共済連による推計
※2 死亡者数: 農作業死亡事故調査(農林水産省)、死亡災害報告(厚生労働省)
就業者: 農林業センサス、農業構造動態調査(農林水産省)、労働力調査(総務省)

参考: 農林水産省ホームページ

共済金支払データを活用した農作業安全啓発の取り組み

平成29年から令和2年までの共済金支払データ2万1,634件を用いて、農作業事故の発生要因や事故傾向について分析し、その結果をホームページで公開しています。

JA共済連では「発生件数」の多さや「重症度」の高さにかかる分析結果を参考に、農作業事故の未然防止に向けて8つのVR映像コンテンツを制作しました。

さらに、農作業の安全対策に取り組む行政機関や関係諸団体に分析結果を提供し、対策にいかすため共同利用するなど、持続可能な農業のために貢献しています。



memo

農作業事故を疑似体験できる取り組みとしてグッドデザイン賞を受賞

“農作業事故を自分ごと化できるVR”というコンセプトが事故未然防止に有用であるという高い評価を受け、公益財団法人 日本デザイン振興会が運営する「2020年度グッドデザイン賞」を受賞しました。





3 持続可能な農業への貢献

▶ 農作業効率化の支援

農作業の軽労化・効率化支援を目的に、ドローンなどの先進機器等を寄贈しています。農作業時の負担軽減や、作業時間の短縮を図ることで、農業者の所得増大・農業生産の拡大に貢献しています。



▶ 農業高校等への支援

農業の担い手育成支援を目的に、農業大学校や農業高校等に対し実習用の農業機械・機具などを寄贈しています。学習環境の整備を図ることで、将来の農業後継者の人材育成に貢献しています。



▶ 地域産品の生産拡大の支援

地域農業の活性化を目的に、地域の特性をいかした地域産品の生産振興の取り組みを支援しています。農業者の所得増大や新たな担い手の参入に向けた取り組みを通じて、地域農業の活性化に貢献しています。



農業を志す若い人たちに支援したいですね。



持続可能な農業に貢献していますね！



農業散布にかかると時間が短くなって助かりました

授業で実際にドローンが使えて嬉しかったです



column

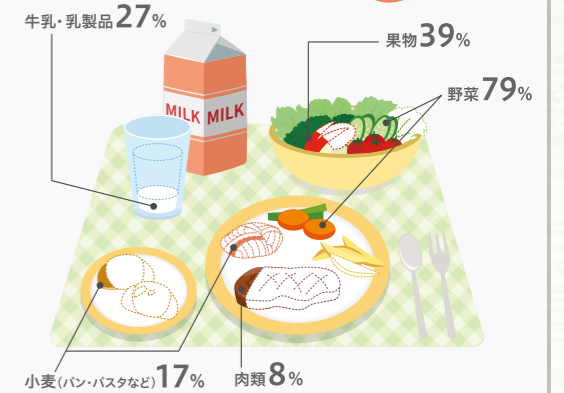
豊かな食と農を未来につなぐために

日本の食料自給率が38%（令和3年度 カロリーベース）であることをご存じでしたか？ 私たちは毎日の食事の約6割を輸入に頼っているのです。この要因の一つは、農業従事者の減少や高齢化など生産基盤の弱体化ですが、農畜産物は不足したからといってすぐに作れるわけではありません。

また、世界的な人口増加や自然災害、輸入元の不作などの情勢により、輸入ができなくなると食料不足になるという懸念もあります。このように、日本の「食」は、多くのリスクに直面しています。

このため、普段から国産の農畜産物を食べて・飲んで、国内農業を後押ししていくことが、農業従事者の減少に歯止めをかけ食料自給率の向上にもつながります。

● 国産品だけで作った食事例 洋食



参考：農林水産省ホームページ

ちさんちしょう
地産地消

地域で生産、地域で消費など

こくしょうこくさん
国消国産

食料安全保障、食料自給率の向上など

SDGs 持続可能な開発目標

飢餓をゼロになど
(こども食堂やフードバンクへの食材提供など)

地域で

地域で生産された農畜産物を、その地域内で消費するのが「地産地消」。地域の直売所を利用することも、農家の皆さまを応援することにつながります。

日本で

“国民が必要とし消費する食料は、できるだけその国で生産する”という考え方が「国消国産」。国産農畜産物を選んで食べることで実践できます。

世界に

「地産地消」「国消国産」に取り組むことは、長距離輸送に伴うCO₂の排出削減による環境への貢献や持続可能な農業を守るという点などで、SDGsの達成に貢献します。

持続可能な農業に向けた取り組み

こども食堂への食材提供、農業従事者への各種支援、次代の担い手となる農業高校・農業大学校への支援、ツアーや地域の媒体を通じた地元の農畜産物のPRなど、日本の食と農を応援するためのさまざまな活動を全国各地で展開しています。

JA共済ビル(東京都千代田区)でも、全国から仕入れた旬の農畜産物を販売する「JA共済マルシェ」の開催を通じて「国消国産」を応援しています。



JA共済マルシェの様子

とれたての野菜はおいしい！



4

地球環境への貢献

温暖化防止や環境保護に資する取り組みにより、気候変動に代表される地球環境問題の解決に貢献します。

▶ JA 共済プレゼンツ それいけ！アンパンマンミニショー＆握手会の開催

「JA 共済プレゼンツ それいけ！アンパンマンミニショー＆握手会」では、一部のコーナーで食育をテーマとしたJA 共済オリジナル絵本の配布や地域の特産品の展示を行い、ミニショーへ来場いただいた親子に、楽しみながら地域の「食」と「農業」について考えるきっかけを提供しています。



©やなせたかし/フレーベル館・TMS・NTV

▶ 県域における食育イベント・農業体験の開催支援

健全な食生活を実現するために、地域の農産物などを用いた食農教育活動に取り組んでいます。農業体験学習や親子料理教室は、小学校と連携した取り組みも多く、多様な組織と連携して実施することから、地域とのつながり強化にも貢献しています。



農業ってやってみると楽しいよね。



地元の野菜や自然がもっと好きになりました

やればできる!!

野菜に触れることで農業が身近になりました!

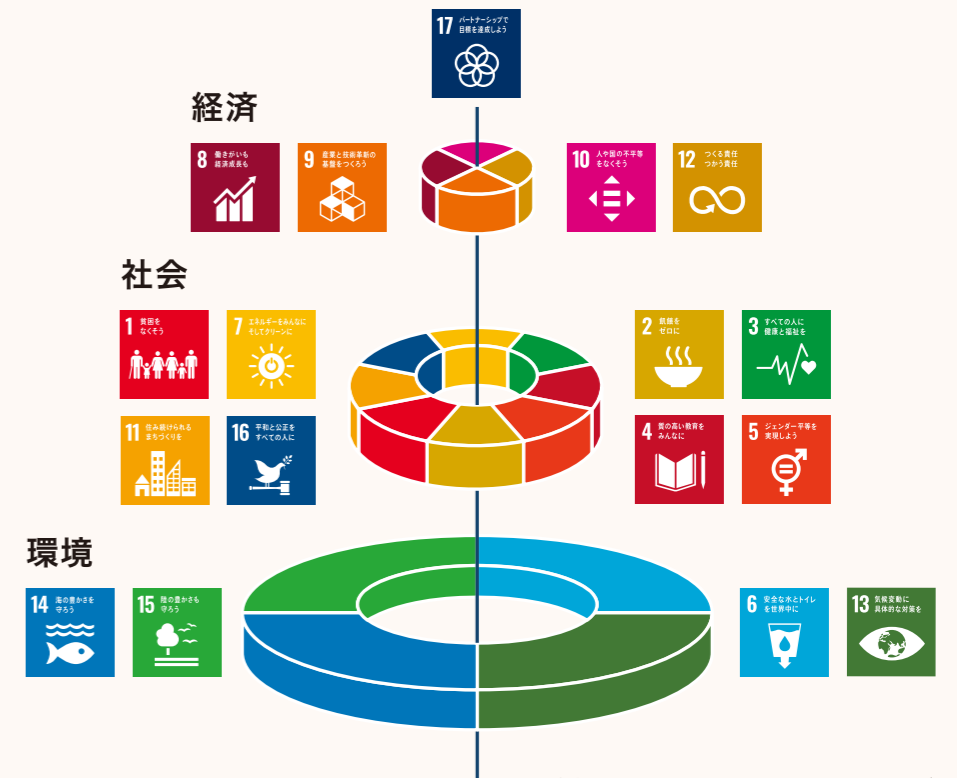


Column

農業・農村の豊かな環境がすべての土台に

SDGsの全17の目標の相互の関係性を示すSDGsウエディングケーキモデルは、「経済」は「社会」に、「社会」は「環境」によって支えられて成り立っているということを表しています。つまり、農業・農村が生み出す豊かな「自然環境」があってこそ、豊かな社会や経済活動が生まれるのです。JA 共済では、食育イベントや農業体験、農業従事者の支援、地産地消・国消国産のPRなどを通じて、農業・農村の豊かな環境を守ること

●SDGsのウエディングケーキモデル



参考:Stockholm Resilience Centreホームページ

memo

農業・農村が持つ「多面的機能」とは

●農業・農村の多面的機能

農業・農村の役割は、食べ物を生産する場というだけではありません。例えば国土面積の約7割を占める中山間地域に畑や水田があることで、洪水や土砂崩れなどを防ぎます。都市の農地は気温上昇を抑えたり、災害時の防災空間になったりと多くの機能を発揮します。これらは「農業・農村の多面的機能」と呼ばれ、国民生活の安定に重要な役割を果たしています。



参考:農林水産省ホームページ

- 北海道
- 宮城県
- 山形県
- 青森県
- 秋田県
- 福島県
- 岩手県

5 地域の実情に応じたさまざまな地域貢献活動

安全・安心な地域社会の実現や皆さまの豊かな生活を守るために、全国各地で地域の実情に応じたさまざまな活動に取り組んでいます。ここでは、その一部を紹介します。

各都道府県の **花** も紹介しています。
都道府県庁のHP等を参考に、JA共済連で作成しています



ここからは地域に寄り添ったさまざまな地域貢献活動を見つけに行きましょう!



1 北海道

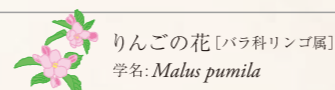


災害時の備えのため非常持出袋を配布

災害時の備えを充実させるために「非常持出袋」5万個をJAを通じて、地域の皆さまに配布しました。平成30年の北海道胆振東部地震の発生を受けて、過去3年間に「救急セット」「非常用給水タンク」「防災用簡易ライト」を配布しており、この「非常持出袋」はそれらの防災グッズをまとめて持ち出せるものです。今後、いつどこで起きかわからない災害に備えて引き続き地域の防災対策に貢献していきます。



2 青森県

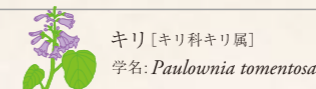


森の恩恵や役割を学ぶため「きずなの青い森プロジェクト」を開催

小学生などを対象に森が地域や農業にもたらす恩恵や役割を学ぶ「きずなの青い森プロジェクト」を開催しました。植林や樹種観察などの自然体験を行う「森林プログラム」、食品ロスや県産農畜産物について学ぶ「食育プログラム」、ヒバ材を活用した工作体験を行う「木工クラフトプログラム」を実施し、参加者からは「来年もぜひ参加したい」との意欲的な声をいただきました。



3 岩手県



農業の担い手育成支援のため教育用農業機械等を寄贈

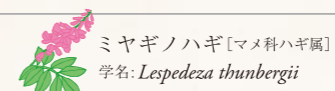
農業の担い手育成を支援するために県内5つの農業関連高校に実習で使うトラクターなどの農業機械を寄贈しました。寄贈式に参加した生徒からは「早く実習で使ってみたい」「地元農業に貢献できる人材になれるよう頑張っていきたい」などの声をいただきました。引き続き県内の農業関連高校の担い手育成支援をしていきます。



いざ、日本一周!!
地域を支える
いろいろな取り組みに
出会うのが楽しみです!



4 宮城県

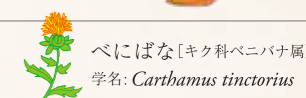


特殊詐欺被害防止のため広報啓発資材を寄贈

相次ぐ特殊詐欺被害を防止するため、啓発用資材としてデジタルサイネージ4台を県警察本部へ寄贈しました。県警察本部からは「地域の特殊詐欺被害防止活動に積極的に活用させていただく」「デジタルサイネージは動画や音で注意を引くことができ、さまざまな場所での活用が期待できる」との声をいただきました。今後も、地域の皆さまが安心・安全に暮らせる地域社会づくりに貢献していきます。



6 山形県

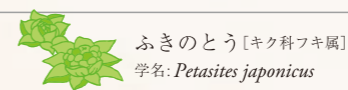


歩行者の安全・安心を守るため「夜光反射リストバンド」を寄贈

夜間の歩行者を守るため、4年連続で県警察本部に「夜光反射リストバンド」1万本を寄贈し、地域のプロサッカークラブのホームゲーム会場や交通安全教室で配布されました。県警察本部の寄贈式では「悲惨な事故の絶無を目指し、反射材の着用促進など各種施策を展開していく」との声をいただき、歩行者の交通事故の未然防止活動に貢献しました。



5 秋田県

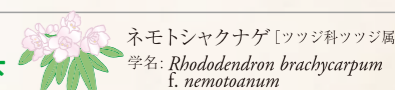


体力向上とスポーツマンシップ育成のため学童野球大会を開催

野球を通じて子どもたちの体力向上を図り、スポーツマンシップや健全な社会性を養うため、県内の13JAと共同で「第20回JA共済学童野球大会」を開催しました。予選を勝ち抜いた13チーム・235人がチーム一丸となって熱戦を繰り広げ、予選から決勝までの様子は地元テレビで特番として放送されました。平成15年より開催しているこの大会を目標として取り組むチームが多いため、今後も継続的に開催していきます。



7 福島県



未就学児を災害から守るため楽しく学べる防災教室を開催

「ふくしま防災アクション」の一環として、県内5か所の認定こども園・幼稚園などで「未就学児向け防災教室」を開催しました。消防署員による紙芝居やJA共済連福島オリジナルヒーロー「防災戦隊ボウサイザー」によるステージショー、踊りながら防災の知識を学ぶ「ボウサイダンス」などで防災の知識を楽しく学んでいただきました。



- 茨城県
- 千葉県
- 栃木県
- 東京都
- 群馬県
- 神奈川県
- 埼玉県

8 茨城県

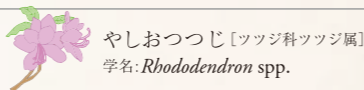


小学生の安全を守るため 黄色の交通安全帽子を寄贈

小学生を交通事故から守るために新入学児童向けに黄色の交通安全帽子を県内の小学校に2万4,200個寄贈しました。この取り組みは昭和52年から継続しており、これまでに約165万人の子どもの安全を守ってきました。寄贈先の先生からは「とても目立つ帽子なので周りの方の注意を引き、安心して登下校させることができる」などの声をいただいています。



9 栃木県

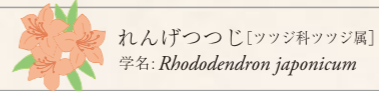


学生・子どもの生活支援のため パックご飯、精米を寄贈

コロナ禍の影響や物価高騰で生活に困っている学生や子どもたちを支援するため、宇都宮大学にパックご飯を2,880食分、県内のフードバンクや子ども食堂へ精米を寄贈しました。宇都宮大学への寄贈式では、「寄贈は学生の大きな支援になる。教職員一同、学生が自ら学び成長できるようしっかりと支援していく」と感謝の言葉をいただきました。今後も各支援先への寄贈回数を増やし、支援を続けていきます。



10 群馬県

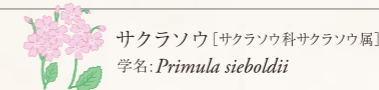


子どもたちの健やかな成長を支援するため 学用品購入費用等を寄付

子どもたちの健やかな成長を願い、県内の児童養護施設8か所、乳児院3か所、児童館65か所に、学用品や図書などの購入に活用いただくために寄付をしました。寄付金は県内の児童福祉施設の3協議会を通じて贈られ、乳児院では誕生日やお宮参りなどを記録したアルバムを退所時にプレゼントするなど、子どもたちのために役立てられています。



11 埼玉県

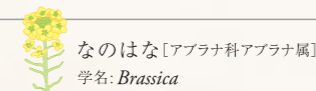


県産農畜産物をPRするため 農業・収穫体験ドライブラリーを開催

直売所や収穫体験施設などを自家車で巡る農業・収穫体験ドライブラリーを開催しました。設定されているルートを回り、野菜や果実の収穫体験や特産物を使った昼食、そば打ち体験などを楽しみながら、県産農畜産物の魅力を知っていただきました。特産物のお土産もあり、参加者からは「また参加したい」「貴重な体験ができ、楽しめた」と喜びの声を多数いただきました。



12 千葉県

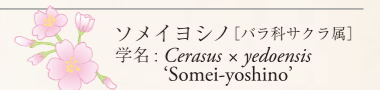


農業の実践教育充実のため 最新の農業機械を寄贈

最新の農業機械を使った実践教育を充実させるため、農業科を設置している高校へドローンやトラクターなどの農業機械を寄贈しました。ドローンを扱った初めての授業では、生徒や先生から「ドローンを実際に扱えることは貴重な経験でした」「多くの生徒が就農を希望するようになってほしい」などの声をいただきました。知事からは「学校で最新鋭の農業機械に触れることは非常に重要であり、実践的な農業教育で最大限活用したい」と感謝の言葉をいただきました。



13 東京都

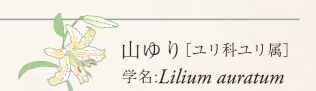


子どもたちの健全な成長のため 小学5年生のサッカー大会をサポート

サッカーの発展と子どもたちの健全な成長のため、平成22年度より「JA東京カップ 東京都5年生サッカー大会」をサポートしています。この大会は小学5年生で必要とされる技術、戦術、マナーの確認とともに、サッカーを楽しむ心を育み、試合での貴重な経験を通じてたくましい選手に育つ大切な機会として運営されています。参加者からは「5年生が主体の大会は珍しいので楽しみにしている」という声をいただきました。



14 神奈川県

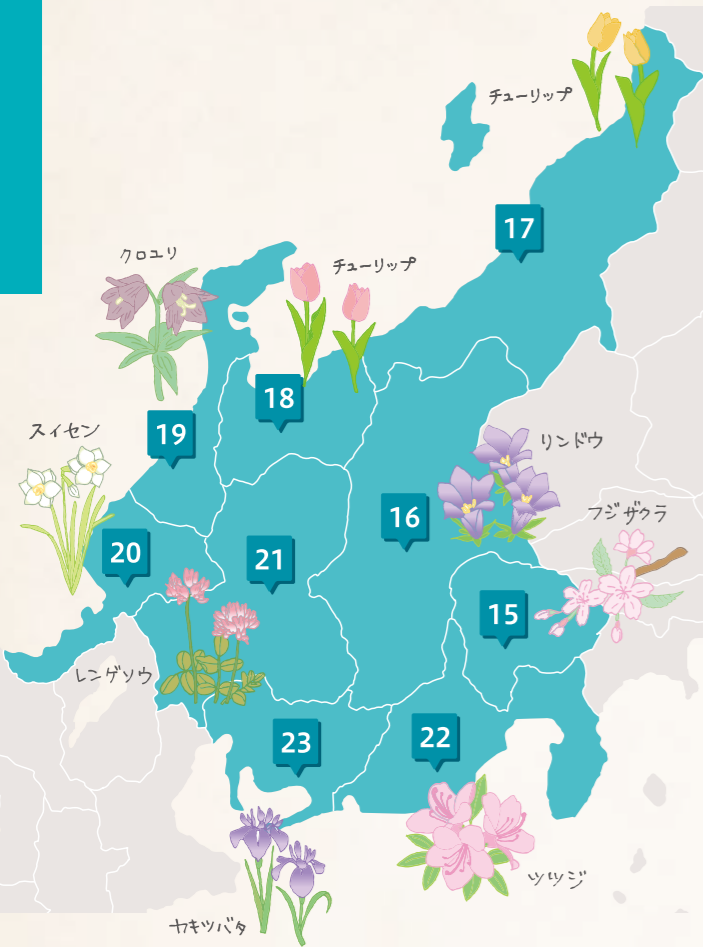


地産地消促進のため ラッピングバスでPR活動を実施

地域の皆さまに県産農産物を知ってもらい、地産地消への取り組みをすすめるために県内を走る12台のラッピングバスでPR活動を実施しました。JA共済オリジナルキャラクター「ひとのわぐま」を使ったイラストや県内12組合のロゴと特産農産物を紹介したイラストで、県内の農業・農産物を知らない人にも興味を持っていただくことができました。



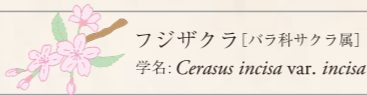
- 山梨県
- 富山県
- 岐阜県
- 長野県
- 石川県
- 静岡県
- 新潟県
- 福井県
- 愛知県



子どもたちの笑顔があふれてますね！



15 山梨県

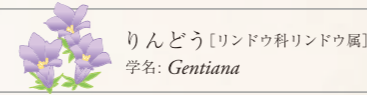


子育て支援や防災意識の啓発のため 家族体験型イベントに協賛

地元テレビ局などが共催する家族体験型イベント「やまなしこどもの城フェスタ2022」に協賛し、子育て支援や防災意識の啓発を行うブースを設置しました。過去の災害の写真やポスターなどを掲示するとともに、起震車体験を通じて防災に対する意識を高めていただきました。



16 長野県

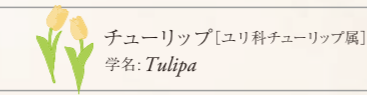


食と農の大切さを知ってもらうため 農業体験を通年で実施

食と農の大切さを学び、次代の担い手を育成するために保育園・小・中学校に向けて農業体験を実施しました。子どもたち、保護者や学校の先生、JA役職員、JA女性部、JA青年部が協力し、田植えから稲刈り、はぎ掛けや脱穀などお米ができあがるまでを体験しました。参加者からは「収穫したお米を食べるのが楽しみ」という声や、農家さんへの感謝の気持ちが育まれ、農業の苦勞や喜びを実感していただきました。



17 新潟県

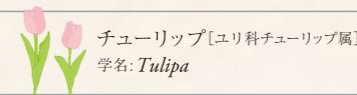


県産農産物の魅力を覚えてもらうため ぬりえコンテストを開催

0歳児から6歳児を対象に県本部オリジナルキャラクター「ちい助」を題材にしたぬりえコンテストを開催しました。コンテストは応募から結果発表まですべてホームページ上で実施し、計692点の応募をいただきました。「ちい助」による地域貢献活動の紹介とあわせて県産農産物の魅力などについて広くPRしました。



18 富山県

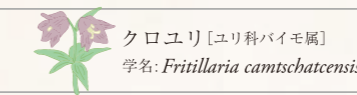


防災意識を高めるため 防災パネル・防災グッズを寄贈

平成29年度より災害時の備えとして災害用簡易トイレを寄贈してきましたが、令和4年10月の富山県防災危機管理センターの竣工に合わせて、防災パネル・防災グッズを寄贈しました。防災知識を記載した防災パネルや日頃から備えておきたい防災グッズを、1階の交流・展示ホールの防災展示スペースに設置していただき、地域の皆さまの防災意識の啓発に貢献しています。



19 石川県

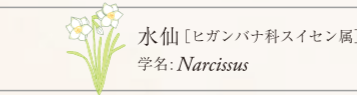


地域の絆を深めるため 5時間リレーマラソンに特別協賛

地域の絆を深めるために「JA共済Presents かなざわ5時間リレーマラソン」に特別協賛しました。リレーマラソンは、1周約1.5kmの特設コースを1チーム4~10人でタスキをつなぎ5時間での周回数を競います。今回は、47チーム・366人が参加し全チームが5時間走りきりました。参加者からは「チームのメンバーとの絆が深まった」「楽しかった」などの声を多数いただきました。



20 福井県

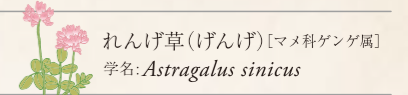


防災・減災の大切さを啓発するため ぼうさいコンテストに協賛

防災意識を高めるため「家族でかくにん！わが家のぼうさいコンテスト」に協賛し、小学生やその家族などの視点で防災について考えてもらい、防災マップ作品を応募いただきました。コンテストに合わせて出前授業を行うことで、より効果的に防災意識の啓発に貢献でき、小学生から「いつも防災の新しい情報を集めている」との声をいただきました。



21 岐阜県



子育て世代応援のため 母子手帳ケース配布と情報発信

県内市町村で、母子手帳を受け取るすべての妊婦さんへオリジナル母子手帳ケースをお渡しし、地域貢献活動の取り組みや子育て支援情報の配信サイトなどを紹介したカードを配布しました。また、子育て支援SNS「JA共済こそだてひろば(岐阜県)」では子育てのお役立ち情報を定期的に配信するとともに、「JA共済アンパンマンこどもくらぶ」の案内も配信し、会員の方にはお誕生日プレゼントや子育て情報冊子などをお届けしています。



22 静岡県



豊かな心と身体を育てるため 子育て支援のイベントへ特別協賛

「豊かな心と身体を育てる」をコンセプトにした地元テレビ局主催の子育て支援イベント「シズオカンキッズ応援隊」へ特別協賛しました。ステージショーや企業の出展などで子育て世代に、家族で楽しんでいただきました。「JA共済ちよいムズチャレンジ」などの実施を通じて、多くの参加者から「楽しかった」との声をいただきました。



23 愛知県

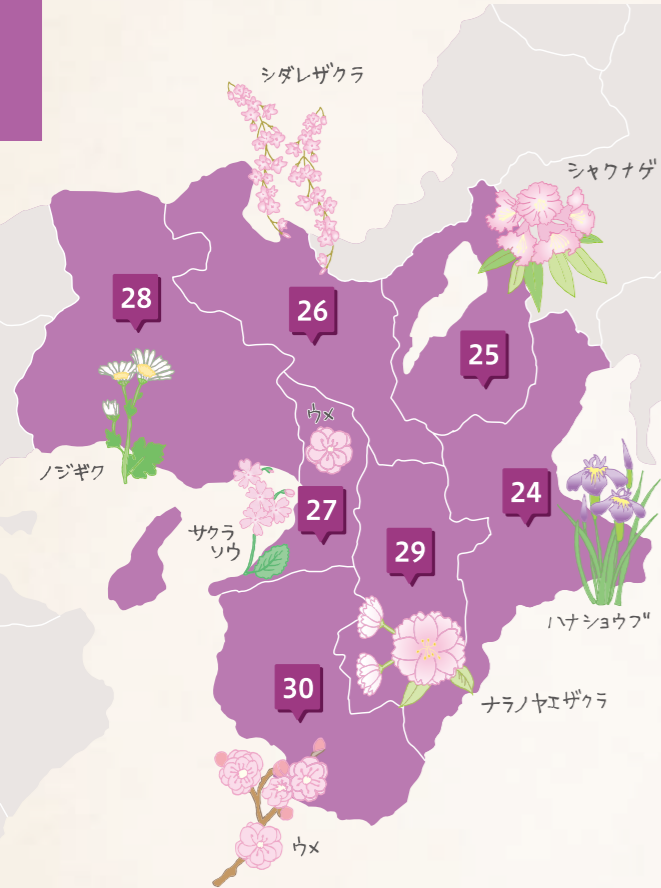


地元農業の活性化のため テレビ番組を制作・放送

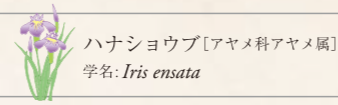
地元農業と地域の活性化を目的としたテレビ番組を制作しました。本番組は生産者へのインタビューや特産品の収穫体験、調理方法および産直施設の紹介などを通じて、農業全般について学んでもらうことを狙っています。またSNSでも継続的に情報を発信しています。



- 三重県
- 滋賀県
- 京都府
- 大阪府
- 兵庫県
- 奈良県
- 和歌山県



24 三重県

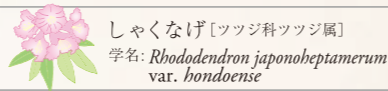


子どもたちの健全な心身の発育のため 少年サッカー大会を開催

サッカーの楽しさを通じて、健全な心身を育てるために「JA共済カップ 三重県少年サッカー大会(U-11) 2022」を開催しました。決勝大会では厳しい予選を勝ち抜いた8チームが精一杯のプレーを繰り広げる一方で、勝ち上がれなかったチームの選手が涙する姿もありました。この大会が子どもたちのスポーツを楽しむきっかけとなることを願っています。



25 滋賀県

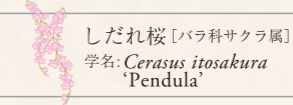


書道に触れる機会を増やすため 書道講習会・展示会を開催

県内の書道コンクール開催回数が50回の節目を迎えたことを記念し、書道に触れる機会を増やすため、書道講習会および展示会を開催しました。書道講習会では県内の小・中学生が条幅の課題に取り組み、展示会では金賞・銀賞・入選作品計87点を展示しました。これからも小・中学生書道コンクールを通じて、県内の書写教育発展に貢献していきます。



26 京都府



“都市農業の今”を発信するため オリジナルWEBサイトを制作

“都市農業の今”を知っていただくため、暮らしに関わる都市農業の価値や魅力を発信するオリジナルWEBサイトを制作しました。「暮らしと農がリンクする」をコンセプトに生産者、地域の皆さまや子どもたち、企業や団体など農業に携わる人たちがそれぞれの立場から情報を発信しています。記事は定期的に更新し、バックナンバーもさかのぼって読むことができ、多くの方々に閲覧していただいています。



27 大阪府

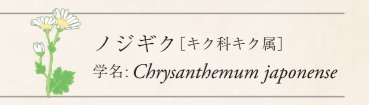


子どもたちを交通事故から守るため FM大阪のプロジェクトに協賛

交通事故を未然に防ぎ子どもたちの安全を守るため、FM大阪が主催する「KIDS SAFETY PROJECT」に協賛し、府内の小学4年生約7万3,000人に交通安全啓発ブックを配布しました。FM大阪の特別番組やレギュラー番組の放送で啓発ブックと連動したクイズなども実施し、啓発活動を行いました。寄贈先の小学校からは啓発ブックの追加要望もあり、府内の多くの子どもたちに交通安全について考えていただくことができました。



28 兵庫県

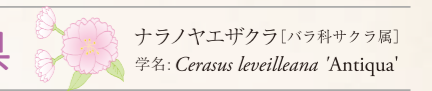


震災の教訓を次代につなぐため 備蓄食料を寄贈

阪神・淡路大震災の記憶・教訓を次代へつなぐ、災害に強いまちづくりに貢献するために、備蓄食料を寄贈しました。寄贈した食料は、大規模災害が発生した際に緊急消防援助隊が被災地で活動するときに備えて保管されます。贈呈式では、防災監から「緊急消防援助隊に活用し、災害時に役立てたい」という声とともに感謝状をいただきました。



29 奈良県

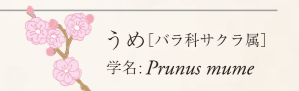


県産農畜産物の消費拡大のため PR活動と展示即売会を実施

県産農畜産物の魅力を知ってもらい消費拡大を支援するため、県庁で展示即売会「うまいもん回廊市」を開催しました。会場では県産米やみたらし団子、牛乳などを振るまったほか、大和茶の試飲も行いました。また、直売コーナーでは旬の野菜や果物、花、畜産物、加工品など40品目以上の農畜産物を販売しました。約1,500人の来場者があり、農家さんが丹精込めて育てた県産農畜産物を広くPRできました。



30 和歌山県



子どもたちの成長を応援するため 学童軟式野球大会を開催

子どもたちの健全な成長と地域の皆さまとの絆づくりのため、「第18回」JA共済旗学童軟式野球大会を開催しました。県内8支部の予選を勝ち抜いた強豪16チームが優勝をめざして熱戦を繰り広げた結果、「美浜少年野球クラブ」が栄冠を手に入れました。今後もスポーツ大会の開催を通じて次代を担う子どもたちに「夢・愛・希望」を伝え、「がんばる若い力」を応援していきます。



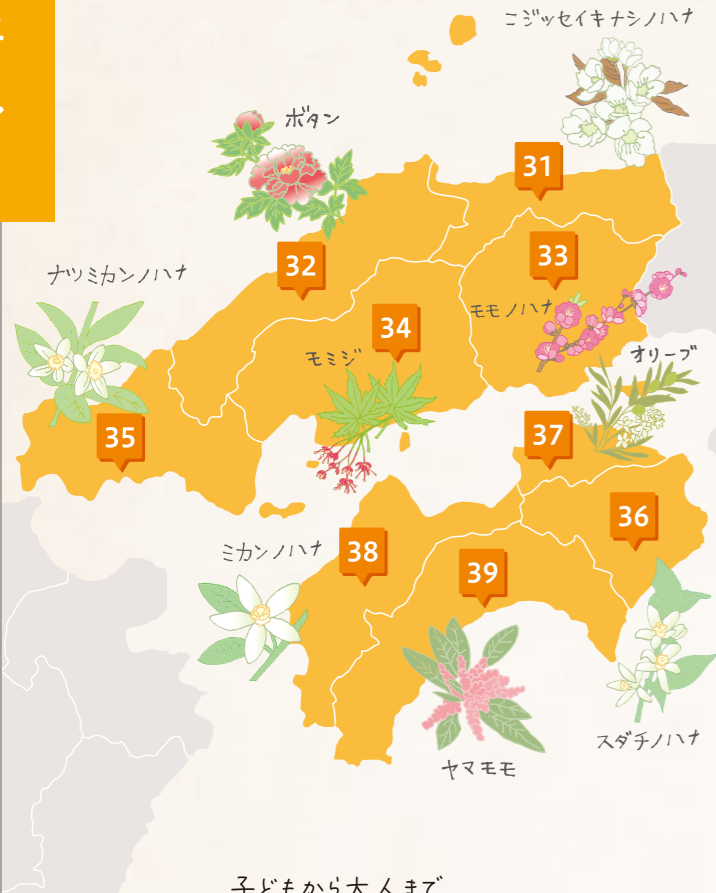
あちこちに笑顔があふれていますよ!



笑顔を見ていると、僕も楽しくなっちゃいます!



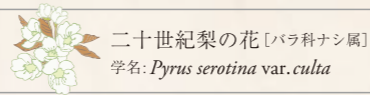
- 鳥取県
- 広島県
- 香川県
- 島根県
- 山口県
- 愛媛県
- 岡山県
- 徳島県
- 高知県



子どもから大人まで、
たくさんの人に寄り添う活動が
行われていますね!



31 鳥取県



農業就業者の安全を守るため トラクター用の反射板セットを寄贈

農業就業者の高齢化に伴い増えている農作業事故を防ぐため、鳥取県農作業安全・農機具盗難防止協議会へ「トラクター公道走行用反射板セット」200枚を寄贈しました。贈呈式では協議会会長から「実効性を高めるため必要となることにより早くお届けし、農作業時の安全意識を高め事故防止に役立ててもらいたい」との声と感謝状をいただき、農作業事故の未然防止にお役立ていただきました。



32 島根県

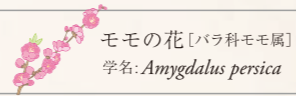


青少年の健全な育成のため 学童軟式野球選手権大会に特別協賛

野球を通じて子どもたちの心と体の健全な成長を育み、正しい社会マナーを身につけてほしいという願いを込めて実施されている「JAカップ第39回島根県学童軟式野球選手権大会県大会」に特別協賛しました。この大会は令和4年度で39回を迎えた歴史ある大会で、熱戦の様子は地元テレビ局でも放送されました。暑い中での連戦でしたが、子どもたちは元気に競技に打ち込んでいました。

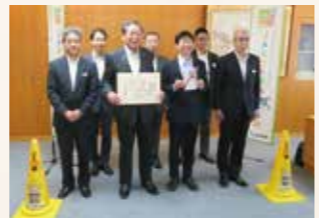


33 岡山県



子どもを危険から守るため 目印となるコーンを寄贈

危険に遭遇した子どもが駆け込みの目印とするため、「子ども110番の家セーフティーコーン」1,213本を県内79の小学校に寄贈しました。セーフティーコーンには子どもたちによって「110番シール」が貼られ、学区内の「子ども110番の家」に届けられました。PTAや地域の皆さまからは「子どもの目線で確認しやすい」「子どもが自分でシールを貼り、地域に設置することで防犯意識がより一層高まる」などの声をいただきました。



34 広島県

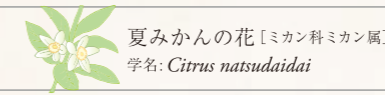


ママ・パパ応援のため 交流&体験型イベントを開催

次代を担う子どもたちの成長を願い日々奮闘しているママ・パパを応援するため、家族で楽しめるイベント「JA共済 Presents すくすく夢フェスタwithひろしま満点ママ!!」を開催しました。会場ではゲームやショー、お米のすくいどりや、TV番組「ひろしま満点ママ!!」の出演タレントが考案したゲームなどが行われ、番組で生中継されました。参加者からは「親子で楽しめるイベントだった」「ぜひまた開催してほしい」と、喜びの声をいただきました。



35 山口県

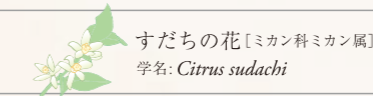


子育てをサポートするため ベビー用食器セットを寄贈

子育てをサポートするため、山口県産婦人科医会の協力のもと、県内の28の医療機関へ「スプーン・フォーク・離乳食プレートセット」8,000セットを寄贈し、医療機関を通じて妊娠中の方にお渡しいただきました。寄贈先の医療機関の皆さまからは「これからの子育てに役立つグッズなのでとても喜ばれています」との声をいただきました。



36 徳島県

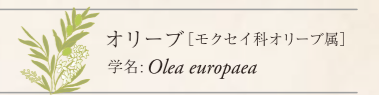


県内農業の活性化を図るため 農業体験付きのバスツアーを実施

農業体験を通じて地産地消への意識を高め県内農業を活性化させるため、収穫体験やJA直売所を巡る「笑味ちゃん農たびツアー」を県内3つのエリアで実施しました。四国放送のアナウンサーがナビゲーターとして同行し、北部地区ではおいしいミニトマトの見分け方や、なんと金時・レンコンの収穫体験を行いました。参加者から「楽しく収穫体験ができてよかった」「次も参加したい」と、嬉しい声をいただきました。



37 香川県

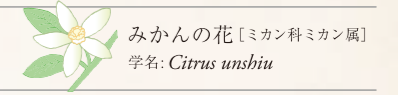


こども食堂を応援するため 県産農畜産物を提供

こども食堂の食事や弁当づくりを支援するため、野菜・肉・米などの県産品を毎月提供しています。こども食堂からは「新鮮なので、小さい子どもからお年寄りまで喜んで食べています。届いた野菜でメニューを考えるのが楽しみです」「いつも助かっています。今回は子どもたちの大好きなお肉なので嬉しいです」などの声をいただいています。今年度も引き続き新鮮な野菜などを提供していきます。



38 愛媛県

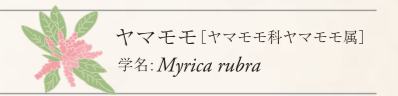


夕暮れ・夜間の交通事故を防ぐため 反射材(タスキとバンド)を寄贈

歩行者や自転車の死亡事故が多く発生する16~20時の交通事故を未然に防ぐため、反射材2種類(歩行者用のタスキといろいろな場面で使えるバンド)を愛媛県交通安全協会へ寄贈しました。反射材は交通安全協会と県警察本部が開催する交通安全教室などで配布され、地域の皆さまの安全に役立てられています。



39 高知県

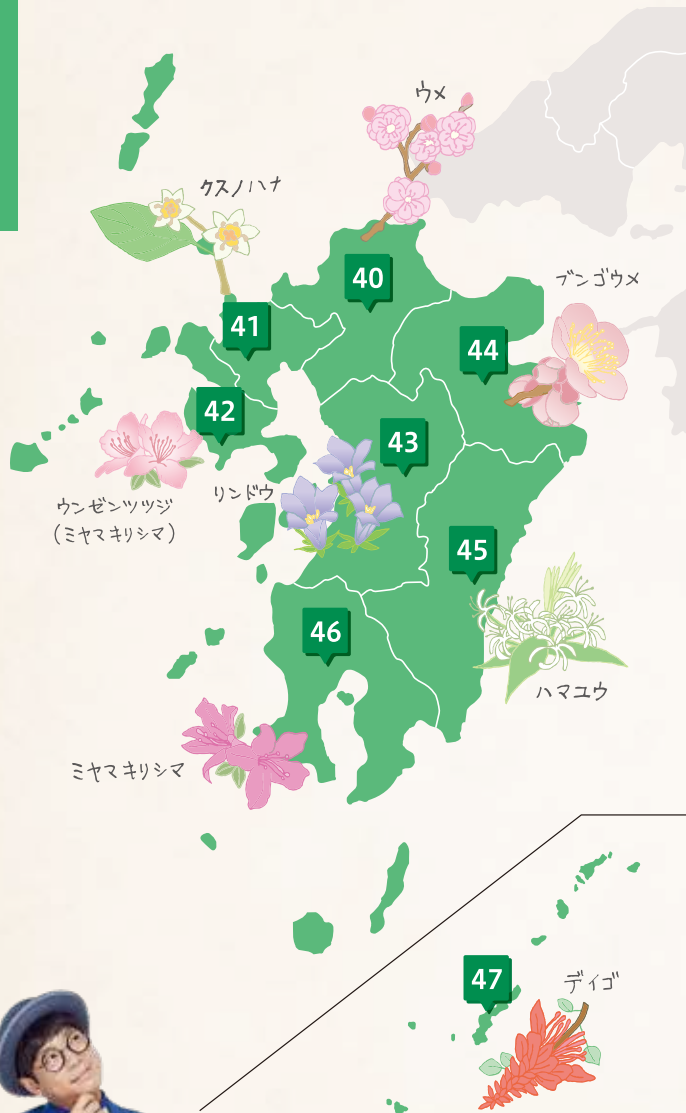


消防・救命救急体制充実のため 消防機関へ救急資機材等を寄贈

高度医療を提供できる医療機関が市内へ集中するなか、山間部などでも高度な救命措置が実施できるように、消防指令車、水難救助車両、災害対応トラックなどを県内3つの消防機関へ寄贈しました。この取り組みは昭和48年から毎年継続しており、県内の消防・救命救急体制充実のためにお役立ていただいています。これからもこの活動を継続し、地域の救命救急体制を支援していきます。

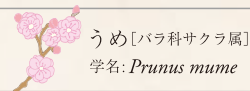


- 福岡県
- 熊本県
- 鹿児島県
- 佐賀県
- 大分県
- 沖縄県
- 長崎県
- 宮崎県



日本全国を見て回りました！
たくさんの方が活動がありますね！
いよいよクライマックス！！
次は空から見てみよう！

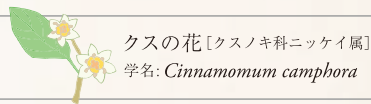
40 福岡県

地域農業の振興と理解のため
中学生へ県産農産物を寄贈

地産地消や食農教育を通じて「食」と「農」への理解とふるさとへの愛郷心を育むため、県内の中学生約2,200人に地元の大豆と麦を使用した「手作り味噌」と「博多万能ねぎ」を寄贈しました。寄贈の際には味噌の原料や作り方、安全・安心な農産物の選び方、手作りの楽しさを伝えました。先生からは「自宅で和食や朝食を食べるきっかけにもなると思うので、喜んでくれると思います」と感謝の言葉をいただきました。



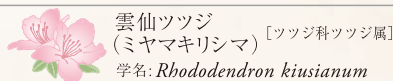
41 佐賀県

交通安全意識を高めてもらうため
「反射材付きエコバッグ」を寄贈

運転者と歩行者の交通安全意識を高め事故を防ぐため、「反射材付きエコバッグ」3,000個を県に寄贈しました。エコバッグには県の交通安全キャラクター「マニャー」が「ハンドサインで渡ろう」と呼びかけるイラストが描かれています。寄贈式では県民環境部長から「ハンドサインで渡ろう運動と合わせて広めていきたい。1件でも事故が減るように有効的に使わせていただく」と感謝の言葉をいただきました。



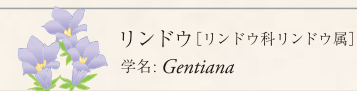
42 長崎県

児童の交通事故を防ぐため
新小学1年生に学童傘を配布

小学生の交通事故を防ぐため、令和元年度より県内の新小学1年生に黄色い学童傘を配布しています。教育委員会への贈呈式のあと、JAを通じて各小学校へ配布され、交通安全に役立てられています。教育委員会からは「歩行者の交通事故防止につながっている」「傘の一部が透明になっており、歩きやすさにも配慮されている」などの声をいただきました。今年度も交通事故の未然防止に貢献していきます。



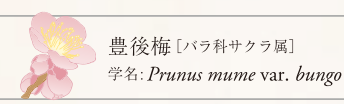
43 熊本県

交通事故を減らすため
反射シール「ピカ黒くん」を寄贈

地域の皆さまを交通事故から守るため、反射シール「ピカ黒くん」1万5,000個を県警察本部に寄贈しました。反射シールはどこにでも簡単に貼ることができ、車のライトに反射するため、運転者の目に留まりやすくなります。夜間パトロールなどの際に、通行中の方へ直接お渡しし活用していただいています。県警察本部の交通部長からは「広く県内で役立てさせてもらう」との言葉をいただきました。



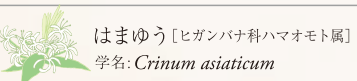
44 大分県

農業者と赤十字血液センター支援のため
記念品として農産加工品を寄贈

コロナ禍の影響により厳しい状況にある農業者と赤十字血液センターを支援するため、献血協力者に提供する記念品として、ジャムやドレッシングなどの農産加工品を寄贈しました。ポスターやチラシなどで告知しており、大分県赤十字血液センターからは「記念品のおかげで予約率があがり、献血協力者にも好評です」との声をいただきました。今年度も継続していきます。



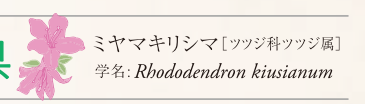
45 宮崎県

買い物等の生活利便性向上のため
移動販売車を寄贈

買い物に不便な中山間地域で暮らしている方や高齢者単身世帯の日常生活を支援するため、移動販売車「とくし丸」をAコープへ寄贈しました。中山間地域で暮らしている方からは「車を持っていないため買い物に行くまでに時間がかかります。移動販売車が来てくれるので非常に助かっています」との感謝の声をいただきました。



46 鹿児島県

地域のスポーツ振興のため
レディース卓球大会に協賛

地域のスポーツ活動を活性化させ、地域の絆を深めるため、「JA共済カップ秋季レディース卓球大会」に協賛しました。30代から80代(最年長89歳!)の幅広い年代の女性51チーム・206人に参加していただき、卓球大会を通じて、地域の女性たちの交流の輪を広げていただくことができました。



47 沖縄県

首里城の復興のため
首里城歴史文化継承基金に寄付

令和元年10月の大規模火災により、世界遺産の首里城が甚大な被害を受けたことから、次代に継承する文化的資産の復元を支援するため、「沖縄県首里城歴史文化継承基金(首里城未来基金)」に寄付しました。知事からは、「首里城の修復や周辺の歴史まちづくりなどに活用させていただく」と感謝の言葉をいただきました。



ふむふむ。あちこちから
感謝の声が聞こえてきますよ。



Let's Go!

いや～
絶景かなあ～、
絶景かなあ～～

わあ～、
喜びの声も
花も満開です!



ちいき
めぐる号

珍しいお野菜に
出会えるので、
毎回楽しみに
しています!



ちよいムズ
チャレンジで
スタンプ制覇!
楽しかったよ!

普段は
会うことのない
人たちとの交流や
演奏を通じて
成長できます。



世界大会
めざして
頑張ります!

農作業事故
体験VRが
農家の皆さまに
役立ちますように。



地域の方と
交流する
きっかけに
なりました。

反射材の効果
わかったので、
つけま～す!

健康チェックも
兼ねて、年2回
献血しています。

交通ルールを
楽しく学ぶことが
できました。

Let's Open!

イベントに参加した大人や子ども、
企画をした職員からも、
さまざまな声が寄せられました。

日本全国に



喜びの**声**が
広がっています!

交通安全意識が高まりました。
傘をありがとう。
和食を食べるきっかけになりました。
スポーツで心身を豊かに!
子育てに役立つグッズが皆さまから喜ばれています。
反射シールで歩行者の事故を減らしたいです。
農産加工品が好評です。
歩行者や自転車の事故を減らしたい。
親子で楽しめました。
自分でシール貼ったよ。
農作業事故の未然防止に役立ててほしいと思います。
新たなメディアで都市農業をPR!
みんなで楽しく走りきり、チームメンバーの絆が深まりました!
家族で防災マップを作ったよ。
皆さまの防災意識を高めていきたい。
移動販売車のおかげで暮らしやすくなりました。とても助かっています。
各種災害に活用できる現場支援に感謝。
野菜がたくさん採れたよ!
野球大好き!
お茶がおいしかった。
伝統野菜を守っていきたいと思った。
子どもが楽しそうに体験していた。
サッカー大会の開催がスポーツを楽しむきっかけになることを願っています。
まちづくりに活用させていただきます。

SDGs がめざす世界の実現に向けた
JA 共済の地域貢献活動

1 健康管理・増進や介護・福祉に資する取り組みにより、健康で豊かな生活づくりに貢献します。
みんなって体操をすると楽しい!
詳しくは p9~12へ

2 防災・減災・事故防止に資する取り組みにより、安全で安心を実感できる地域社会づくりに貢献します。
災害シートとても助かります!
詳しくは p13~18へ

3 農業振興・農業者所得増大・農業リスク軽減に資する取り組みにより、持続可能な農業に貢献します。
詳しくは p19~22へ

4 温暖化防止や環境保護に資する取り組みにより、気候変動に代表される地球環境問題の解決に貢献します。
詳しくは p23~24へ

Droneが使えて嬉しかったです!

野菜がもっと好きになりました!

森の大切さを知って勉強になりました。また来年も参加したいです。

優勝めざして練習頑張ります!

地元の農業に貢献できる人材になれるように頑張ります!

特殊詐欺被害を防ぐため、これからも啓発活動に力を入れます。

防火戦隊ポウサイザーはカッコイイ!

黄色い帽子で子どもたちの登下校も安心です。

ドローンが体験できてよかったです。

学生への食の支援に貢献しました。

たくさんの本ありがとうございました。

反射材が交通事故防止に役立っています。

自分で作ったお米を食べるのが楽しみです。

起震車は貴重な体験でした。

芋掘り楽しかったです。

サッカー大好き!

伝統野菜を守っていきたいと思った。

子育て情報が役立ちます。

家族で防災マップを作ったよ。

皆さまの防災意識を高めていきたい。

届いた野菜でメニューを考えるのが楽しみです。

交通安全ミッションクリアした!

書き教育発展に取り組んでいます。

自分でシール貼ったよ。

農作業事故の未然防止に役立ててほしいと思います。

新たなメディアで都市農業をPR!

みんなで楽しく走りきり、チームメンバーの絆が深まりました!

家族で防災マップを作ったよ。

皆さまの防災意識を高めていきたい。

移動販売車のおかげで暮らしやすくなりました。とても助かっています。

各種災害に活用できる現場支援に感謝。

野菜がたくさん採れたよ!

野球大好き!

お茶がおいしかった。

伝統野菜を守っていきたいと思った。

子どもが楽しそうに体験していた。

サッカー大会の開催がスポーツを楽しむきっかけになることを願っています。

まちづくりに活用させていただきます。

テイモンデイの**花** 咲く編集後記

全国から笑顔いっぱいの喜びの声が届きました! JA共済の地域貢献活動で幸せの花が満開です。まさに「笑顔王国」。

前田裕太

高岸宏行



今後、いつどこで起きるかわからない災害に備えて、地域の防災対策に貢献していきます。

全国に広がる JA 共済の地域貢献活動の輪。SDGs の活動の輪に触れて、僕の心も温かくなりました。

前田裕太

高岸宏行

JA共済の地域貢献活動ホームページ 「ちいきのきずな」お役立ちコンテンツの紹介

JA共済の地域貢献活動ホームページでは、地域貢献活動の詳しい内容をご覧いただけるほか、お子さまも楽しく学べる交通安全コンテンツや家族みんなの健康レシピなど、暮らしに役立つ「お役立ちコンテンツ」を紹介しています。個人や家庭、学校などで活用いただけます。



お役立ちコンテンツで紹介している映像・資料(チラシなど)のまとめサイト。ダウンロードして活用ください。映像はMP4、資料はPDF形式です。



生活支援に関するコンテンツ



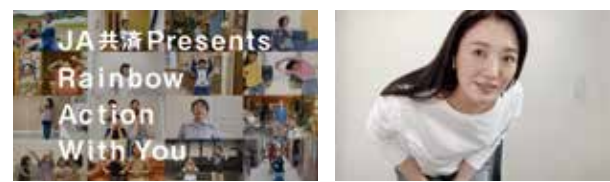
専門家が教える自宅でできる効果的な野球の練習方法や家事トレを映像で紹介



健康・介護に関するコンテンツ



健やかな暮らしに役立つ、レシピ・カラダづくり・介護・Dr.コラム・相談窓口などの情報を紹介



ご自宅で手軽にできる運動不足の解消に役立つJA共済オリジナル健康体操(レインボー体操)を映像で紹介



防災・防犯に関するコンテンツ



ティモンディが地震の揺れを体験し、備えることの重要性を紹介



防災・防犯のために日頃から備えるべきポイントを紹介



東北ユースオーケストラの活動と団員の“今”を紹介



交通安全に関するコンテンツ



ヘルメットの着用効果を映像やチラシで紹介



JA共済と風見しんごさんの交通安全に対する想いを映像で紹介



小学生向けに基本的な交通ルールを映像やチラシで紹介



教科書にも採用されています!



ターゲットに合わせて、交通安全の知識・教育方法を紹介



電動キックボード等の交通ルールを映像やチラシで紹介



幼児向けに交通ルールをゲームやクイズなどで紹介



中高生向けに自転車の交通ルールを映像で紹介



高齢ドライバー向けに危険運転の対処法などを映像やチラシで紹介



シルバー世代向けに交通事故や詐欺被害防止に役立つ情報を紹介

